

# High School Human Rights

(高校人権教育通信 第13号) 平成27年(2015年)2月17日  
発行 長野県教育委員会教学指導課心の支援室  
発行人 永原 経明(心の支援室長)  
kokoro@pref.nagano.lg.jp

## インターネット社会に生きる生徒 価値観の育成に向けて

「インターネットについてのアンケート調査結果」(\*)からは、県内高校生の95.8%がインターネットに接続できる環境にあり、1日3時間以上インターネットを利用している割合は37.4%であることがわかりました。スマートフォンや携帯型ゲーム機などの様々な情報端末を用いて、いつでも、どこでも簡単にインターネットの機能を利用していることがうかがわれます。

(※平成26年7月 長野県教育委員会心の支援室 実施)

インターネットを利用する場合、キーワード検索し、たどり着いたページに貼られた情報に触れ、さらに関連する内容が収集されている情報量満載のリンクを利用することがあります。インターネットのリンクには同じ嗜好の人たちが集いやすいため、利用者にとって心地よい情報だけを取り入れやすく、特定の考え方以外に目が向かず、偏向した考えをもってしまったり、自分の考えと異なるものに対して誹謗中傷したりすることにつながる場合があります。

インターネットの利便性に興味・関心が向けられている生徒に対して、私たち教職員はインターネットの特性や、得られた情報の真偽や価値を判断するにあたり、ネットで得られた情報だけで判断するのではなく、世の中で起きていることと関連づけたり、多面的に考えることの大切さを日頃から指導していく必要があります。

県立高校のある先生は、最近の生徒の姿をこのように感じています。

近年の生徒たちで、知的好奇心の旺盛な者ほど、その知識をインターネットに頼っているという傾向が無視できない。生徒たちの中には、ネット上の情報に強く影響を受け、自身も過激な書き込みをしている者がいたり、或いはそこまではいかななくても、間接的に影響を受けている者が少なくない。

私がこれまで接してきた生徒の中でも、ネット上の書き込みに影響を受け、その思想を盾に、論戦を挑んでくる生徒もいた。彼は、教室では非常に真面目で、自らものを考えようとする生徒で、特に学校として問題とするべき生徒ではなかった。しかし、彼の主張の節々には外国人(特に近隣のアジア諸国)に対する差別的な思想が見え隠れし、しかも恐いことに、本人はそれに対してほとんど無自覚なのである。その時の私は、「思想や主義、主張を持つことは自由だけれど、言葉を選ぶことも重要じゃないだろうか。過激な言葉では、共感はできない」というようなことを言ったような気がする。その時の、彼の不満げな顔が印象的だった。

その他にも、例えば地理の授業で中国や韓国について触れる時、或いは公民の授業で、在日外国人について触れる時、生徒の反応には気になることが多い。露骨に偏見に満ちた発言をする者や、差別的な発言をする者も少なからずいる。これらインターネットに端を発する排外主義は、実は深刻な問題になってはいないだろうか。

わが国と諸外国との関係を扱った本が並ぶ書店では、本の帯に「嫌○○」、「□□を封殺せよ」など、特定の国やその国民に対するセンセーショナルな表現を見ることが少なくありません。また、インターネット上での書き込みになると、さらに表現がエスカレートする場合があります。

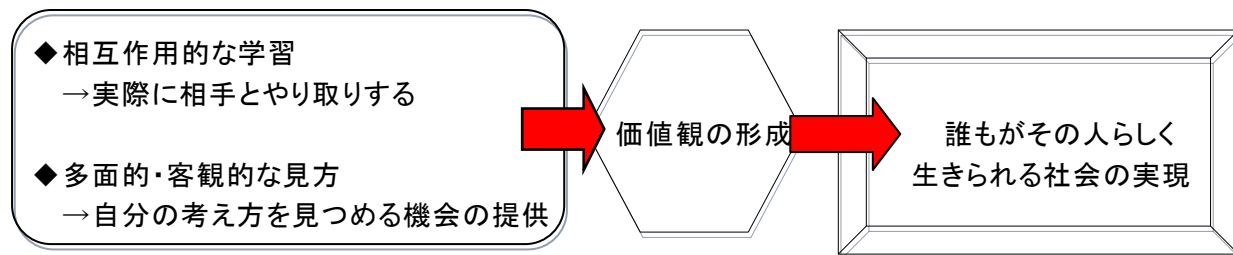
現在、県内には外国籍住民が多く居住しています。飯田市・上田市は外国籍住民が多数居住する全国26の自治体が構成する「外国人集住都市会議」に参加しています。私たち一人一人が、文化

や行動様式の異なる外国籍住民に対して偏見や先入観を持つことなく、互いを尊重しながら共に暮らしていけるようになることは早期に実現すべき課題の一つとなっています。また、他の国の文化を知ることはより豊かな人間性を育むことにもつながります。私たちには生徒がインターネットの情報に煽動されることなく、客観的・批判的な視点を持ち、情報を適正に取り扱えるようにメディアリテラシー（情報活用能力）教育を一層推進していくことが求められています。同時に、お互いが人としての心の在りようを考える教育の重要性がますます高まっています。先ほどの先生はネット上の情報と生徒について次のように考えています。

高校の生徒たちの多くは、ニュースなどでヘイトスピーチや、それを煽動する団体には極端な差別思想と言動を伴っていることについて知っているし、またインターネット上でも、例えばYouTubeなどで、まさにヘイトスピーチの現場を見ることもできる。これらが生徒たちの目に触れて影響を与えることがあるとすれば非常に恐ろしいことだと思う。しかし私の感じている範囲では、これら極端な差別思想には共感をする者は少ないように思う。ただ、それよりも問題なのは、「あれほどの差別発言をしている者がいるならば、これくらいならば問題がない」と、価値基準がずれていってしまうことではないだろうか。（中略）

直接的ではないにしろ、特定の国・地域などに対して排外的な感情を持ち、それをインターネット上に多く書きこんでいる者、またそれを読んで影響を受けている者が多くいる。これはかなりの広がりを見せているように思う。私がよく目にするのは、Yahoo!ニュースへのコメント（いわゆるヤフコメ）である。これらに影響を受けている生徒、或いは、もう加担をしている生徒は、実はかなり潜在しているのではないだろうか。

生徒がそれぞれの価値基準を持つにあたり、次のようなつながりを確認したいものです。



どのような価値基準を共有する仲間と、高校生活を過ごしていくかは生徒のその後の人生に大きな影響を及ぼします。生徒・教職員一人一人が「互いが尊重し合う」ことが強固なものになるよう、人権意識の醸成に向けた先生方の一層の取組をお願いします。

## お知らせ

### 2015年度高校人権教育研修・連絡協議会

日時 平成27年（2015年）5月7日（木）（予定）

会場 長野県総合教育センター（塩尻市）

内容 ◆講演会 ・内容 統一応募用紙・就職差別から人権・同和問題を考える  
・講師 桐畑 善次さん（都立南葛飾高校教諭）

◆ワークショップ など

### 第67回全国人権・同和教育研究大会

日時 平成27年（2015年）11月21日（土）22日（日）

会場 全体会）ホワイトリンク 分科会）長野市を中心に開催

地元大会テーマ「信州発！そのあとに続く全ての世代のために」

長野県で初めての開催になります。参加規模が1万人の大会です。